

令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立昭和小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問調査）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	46人	算数	46人	理科	46人
第5学年	国語	59人	算数	59人	理科	59人

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

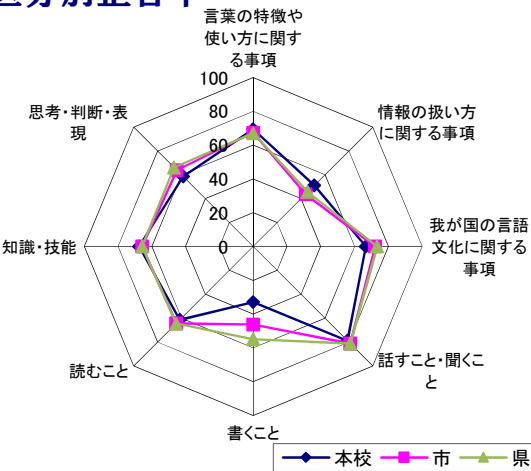
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立昭和小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	69.4	67.4	67.1
	情報の扱い方にに関する事項	51.1	43.8	45.7
	我が国の言語文化にに関する事項	66.7	72.1	73.4
	話すこと・聞くこと	78.9	81.2	81.2
	書くこと	32.8	46.2	54.9
	読むこと	61.4	64.3	64.5
観点	知識・技能	67.5	65.7	65.7
	思考・判断・表現	58.6	64.0	66.3



★指導の工夫と改善

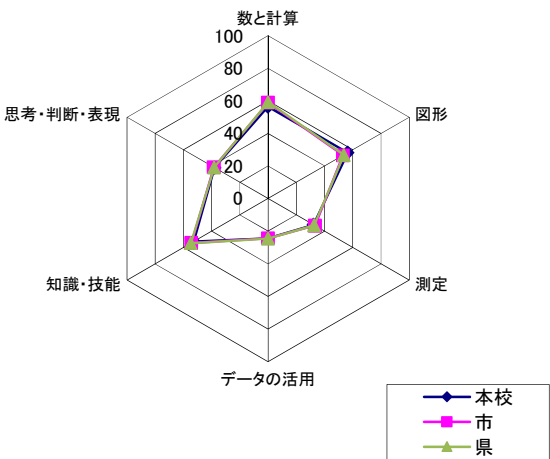
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○平均正答率が69.4%で、市の平均を2.0ポイント上回っている。 ○漢字の書きの問題については、市の平均より約7ポイント上回っている。 ●主語と述語の組み合わせを答える問題では、市の平均より7ポイント下回った。	・漢字の読み書きについては、新出漢字を使った様々な熟語に触れさせる機会を意図的に設定する。 ・主語と述語の理解・活用については、意図的に学習内容を整理する場面を作ったり、例文作りに取り組む機会を増やしたりすることで、主語と述語の関係を捉えられるようにする。
情報の扱い方にに関する事項	○平均正答率が51.1%で、市の平均を7.3ポイント上回っている。 ○国語辞典の使い方の問題では、市の平均より約6ポイント上回っている。	・漢字辞典を用いて、言葉の意味や使い方を調べる機会を意図的に設定する。
我が国の言語文化にに関する事項	●平均正答率が66.7%で、市の平均を5.4ポイント下回っている。 ●漢字のへんとつくりを答える問題では、市の平均より約6ポイント下回った。	・漢字のつくりについて、興味をもてるように、授業や課題を工夫し、漢字に触れる機会を増やす。
話すこと・聞くこと	●平均正答率が78.9%で、市の平均を2.3ポイント下回っている。 ○司会者の役割を考える問題では、正答率80%で市の平均を上回った。 ●話し方の工夫を考える問題では、市の平均より約7ポイント下回った。	・話し合いの際に、立場にあった役割を理解して話し合いができるようにポイントを知らせたり、声をかけたりする。 ・国語の授業や他教科、学級活動においても、自分の意見を述べる際に、相手に伝わるように自分の考えの理由を挙げる習慣づけをする。
書くこと	●平均正答率が32.8%で、市の平均を13.4ポイント下回っている。 ●自分の意見を文章で答える問題では、市の平均より約15ポイント下回った。 ●指定された条件の中で、自分の意見を理由づけして答える問題の正答率が低い。	・朝の学習や授業の時間を使い、指定された長さで文章を書いたり、意見分の型を踏まえて、短時間で書いたりする練習を行うなどして書く力の定着を目指す。 ・問いに対して、文章で答える答え方の練習を行う。 ・問題で問われていることを理解できるように、各教科で横断的に問われていることを整理する練習を行う。
読むこと	●平均正答率が61.4%で、市の平均を2.9ポイント下回っている。 ○文章にあった言葉を書き抜き問題では、市の平均を5ポイントを上回っている。 ●登場人物の行動にあった文章を選ぶ問題では、市の平均を10ポイント下回った。 ●文章を内容ごとにまとめる問題では、市の平均を8ポイント下回った。	・叙述を基に場面の様子や段落の内容を捉えることができるように、段落ごとに要約する練習を行うようにする。 ・物語を読む際には、場面の様子や人物の行動などの描写を丁寧に捉えて、想像をより広げながら読むようにする。

宇都宮市立昭和小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	56.4	58.9	59.2
	図形	56.3	53.0	53.7
	測定	32.2	33.1	32.6
	データの活用	24.4	24.4	24.6
観点	知識・技能	52.7	54.3	54.7
	思考・判断・表現	38.1	38.5	38.3



★指導の工夫と改善

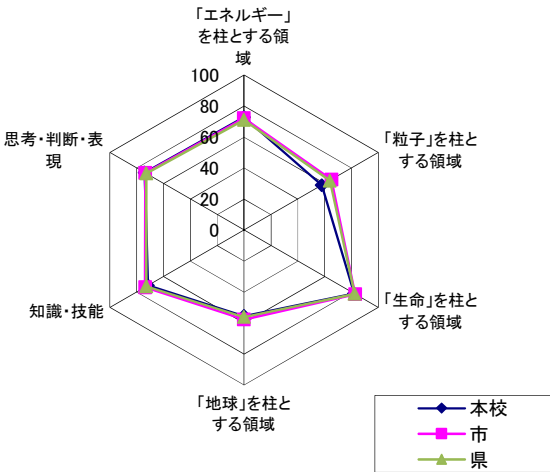
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	●平均正答率は56.4%で、市の平均を2.5ポイント下回っている。 ○□を使った掛け算の式に合う文章を選ぶ問題では、10.8ポイント上回った。 ○大きな数の表し方の問題では、正答率が80%であり、市の平均を2.8ポイント上回っている。 ●数直線の目盛りが表す数の大きさを分数で表す問題では、市の平均を13.6ポイント下回っている。	・計算力に個人差が見られるので、四則演算など算数の基礎基本となる力は少人数学習など学習形態を工夫しながら指導していく。 ・スキルやAIドリル等を活用して繰り返し復習するとともに、正解を意識した取組みや間違った問題の分析を自分で行う活動を取り入れることで、さらに習熟を目指していく。 ・分数については、仕組みがよく分かるように数直線や図などを用いて、視覚に理解を促すことで定着を図る。
図形	○平均正答率は56.3%で、市の平均を3.3ポイント上回っている。 ○正三角形を作図する問題では、平均正答率が55.6%で、市の平均を16.7ポイント上回っている。 ●二等辺三角形になる図を選ぶ問題では、平均正答率が66.7%で、市の平均を3ポイント下回っている。	・様々な形の図形を多面的に捉えられるように、折り紙やブロックなどを活用して理解を深めるようにする。 ・作図の手順について図形の性質を捉えながら、自分の言葉で表現できるように言語表現を行う場を意図的に設けていく。
測定	●平均正答率は32.2%で、市の平均を0.9ポイント下回っている。 ○はかりの目盛りを読み取る問題では、平均正答率が26.7%で、市の平均を1ポイント上回った。 ●時間経過から時間を求める問題では、平均正答率が31.1%で、市の平均を3.7ポイント下回っている。	・日常生活の中で、時刻と時間の概念を十分に身に付けられるように、今後も意図的な声掛けをするとともに、時間の単位換算の問題を繰り返し行うなどして、習熟を図る。 ・重さや長さの問題でも同じように、日常生活の中で体感したり、予想したりする場を設ける。
データの活用	●平均正答率は24.4%と市の平均と同じだった。 ○目盛りが異なるグラフを比較する問題では、平均正答率が31.1%で、6.6ポイント上回った。 ●適切なグラフを選ぶ問題では、平均正答率が2.2%と低く、市の平均を8.8ポイント下回った。また、無回答も44.4%と高くなっている。	・様々なグラフから考えられることを読み取り、意見交換する場を設ける。 ・グラフの特徴を言語化する機会を設け、目的に合ったグラフを選べるようにする。

宇都宮市立昭和小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	72.7	72.1	71.0
	「粒子」を柱とする領域	57.8	65.2	63.9
	「生命」を柱とする領域	82.0	82.8	82.4
	「地球」を柱とする領域	55.6	57.7	56.2
観点	知識・技能	71.5	73.8	72.8
	思考・判断・表現	74.1	73.7	72.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	○平均正答率は72.7ポイントで、市の平均正答率を0.6ポイント上回っている。 ○電気を通すものを選ぶ問題や、導線のつながり方を選ぶ問題では、県全体、市町全体の正答率を共に上回ったことから、電気分野について本校の理解度が定着していることがわかる。	・日常生活の事象と既習事項を関連させる学習活動を十分に行う。 ・理科で学習したことを根拠に、生活の中の事象を科学的に説明する学習活動を十分に行う。
「粒子」を柱とする領域	●平均正答率は57.8%で、市の平均正答率を7.4ポイント下回っている。 ●体積が同じでも種類によって重さが違うことを答える問題では、正答率が24.4%で市の平均正答率を17.9パーセント下回っている。	・複数の資料を関連付けて考えるなどの発展的な問題に取り組む活動を取り入れ、学習したことを活用する力を育てる。
「生命」を柱とする領域	●平均正答率は82.0%で、市の平均正答率を0.8ポイント下回っている。 ●虫眼鏡の使い方の正答率が44.4%で、使用技能の定着が十分ではない。 ●昆虫の育ち方の違いをイラストでまとめた資料から分かることを答える問題において、資料を正しく読み取ることができていない。	・道具の使用技能を知識として定着できるようにするために、道具を使用する活動を多く取り入れるようにする。 ・学習の中で、図や写真からわかったことを読み取る活動を取り入れることで、資料活用の力を身につけるようにする。
「地球」を柱とする領域	●平均正答率は55.6%で、市の平均正答率を2.1ポイント下回っている。 ●方位磁針の正しい使い方を選ぶ問題において、平均正答率は37.8%で、市の平均正答率を9.5パーセント下回っており、使用技能の定着が十分ではない。	・道具の使用技能を知識として定着できるようにするために、道具を使用する活動を多く取り入れるようにする。

宇都宮市立昭和小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

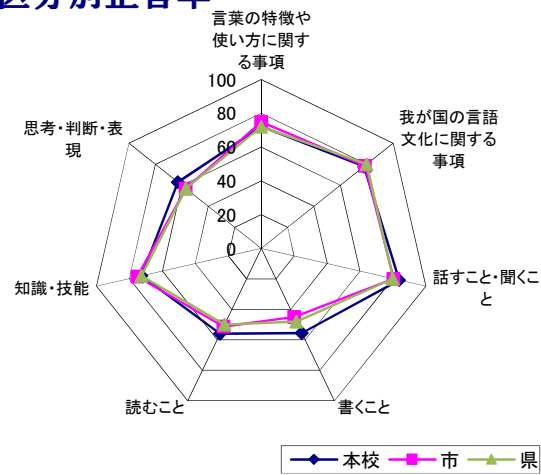
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で学校の宿題をしている」の肯定的割合は97.8%で、家庭での学習習慣がほぼ身に付いていることがわかる。
○「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」の肯定的割合は73.9%と市の平均を6.3ポイント上回っている。総合的な学習の時間や社会科などの調べ学習や国語などのまともに活用してきた成果と考えられる。
○「授業ではクラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」の肯定的割合は97.8%と、ほぼ全員が話し合いに進んで参加していることが伺える。これからも隣の人やグループなどで短時間に行う話し合いを、積極的に取り入れていきたい。
○「毎日朝食を食べている」の肯定的割合は100%と非常に良い結果となっている。これからも1日の活力となる朝食を食べて、元気に登校してきてほしい。
○「自分にはよいところがあると思う」の肯定的割合が91.3%と市の平均を6.4ポイント上回っている。ほとんどの児童が自己肯定感をもって生活できていることは素晴らしいことと考える。自分のよいところを感じられていない8.8%の児童への更なる支援を行ってきたい。
・「1か月に何冊ぐらい本を読みますか」に回答は、11冊以上読む児童が28.3%いる反面、32.6%の児童が1冊も読まないと回答している。読書をする時間を積極的に作り、本にふれる素晴らしさを感じさせたい。
●「家で学校の授業の予習をしている」「・・・復習をしている」の肯定的割合は市の平均より5.5ポイントと3.7ポイント低く、何のために宿題をやっているのか理解しないで取り組んでいる様子が見られるので、宿題をやる目的をはっきりとして取り組ませたい。
●「難しい問題に出会うとよりやる気が出る」の肯定的割合は45.6%と市の平均より11.5ポイント下回っている。図や式などを使って筋道を立てて考えることで問題を解くことができるという成功体験を積み、自信を持たせるようにしたい。
●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」の肯定的割合は50%で、市の平均を2ポイント下回っている。しかも、「いいえ」と回答した児童が26.1%おり、市の平均より5.5ポイント多い。発表の話型の例を掲示したり、考えや意見を認め称賛したりして、発表に対するハードルを下げ、自信を持たせたい。
●「自分は勉強がよくできる方だと思う」の肯定的割合は50%で、市の平均より17.4ポイント下回っている。児童の特性を見極め、基礎基本を徹底しながら、特別支援教室との連携も深めて、学習に対する自信をつけるようにしたい。

宇都宮市立昭和小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	72.2	74.8	72.0
	我が国の言語文化に関する事項	77.8	78.6	79.9
	話すこと・聞くこと	83.8	80.4	80.0
	書くこと	55.6	45.1	48.0
	読むこと	56.0	51.3	50.0
観点	知識・技能	72.7	75.2	72.8
	思考・判断・表現	62.9	57.0	57.0



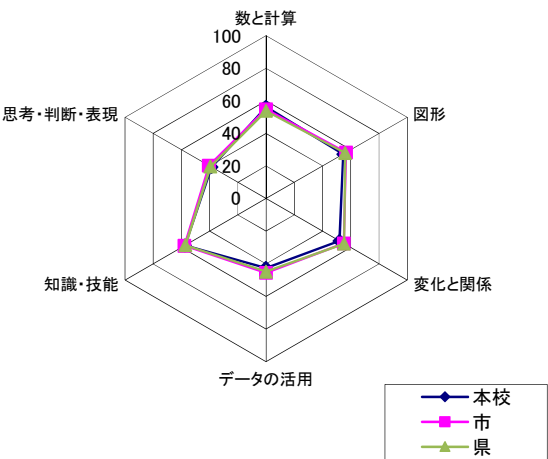
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	●平均正答率は72.2%で、市の平均を2.6ポイント下回る。 ●漢字の読み・書きについては、市の平均を3.7ポイント下回る。 ○連体修飾語の問題については、正答率が高い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の読み書きについて、新出漢字を使った熟語に触れさせたり、意味を理解させたりして、日常的に漢字を使えるようにする。 ・定期的に漢字小テストを実施することで、漢字の習得を図る。 ・修飾語の理解・活用については、意図的に授業の中で復習したり、例文作りに取り組む時間を増やしたりするなどして、身に付けられるようにする。
我が国の言語文化に関する事項	●平均正答率は77.8%で、市の平均を0.8ポイント下回る。	・国語辞典や漢字辞典、ことわざ辞典などを活用し、言葉の意味を十分に理解させ、日記や短文作りなどで実際に使うことで、語彙力を増やしていけるように指導する。
話すこと・聞くこと	○平均正答率は83.8%で、市の平均を3.4ポイント上回っている。 ○話し合いの目的を確認し、条件に合わせて自分の考えをまとめる問題では、市の平均を9.0ポイント上回る。	・話を聞く際には、自分と話し手の考えの共通点や相違点を意識させるようにする。 ・各教科や学級活動などの場面で自分の意見を述べる際に、理由や根拠となる情報を挙げて話すことができるように、継続して指導していく。
書くこと	○平均正答率は55.6%で、市の平均を10.5ポイント上回り、良好な状況が見られる。 ○指定された長さで文章を書く問題では、市の平均を18.6ポイント上回る。	・「書くこと」で学習したことを、各教科の中で横断的に使えるようにしていく。 ・条件に合わせて、自分の考えを文章にまとめる機会を設けることで、引き続き書く力の定着を図る。
読むこと	○平均正答率は56%で、市の平均を4.7ポイント上回る。 ●登場人物の正確について、具体的に想像する問題では、市の平均を9.0ポイント下回る。 ○説明文の読み取りの問題では、市の平均を6.8ポイント上回る。	・物語を読む際に、場面の様子、人物の行動や心情などの描写を丁寧に捉えて想像をより広げながら読むようにする。 ・他教科においても、既習事項の活用、文章の構成を意識させながら、読む力の向上を目指す。

宇都宮市立昭和小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	56.2	54.9	53.7
	図形	54.6	56.6	56.1
	変化と関係	51.9	55.1	55.2
	データの活用	42.6	45.5	44.8
観点	知識・技能	57.5	57.8	57.2
	思考・判断・表現	38.6	40.6	39.5



★指導の工夫と改善

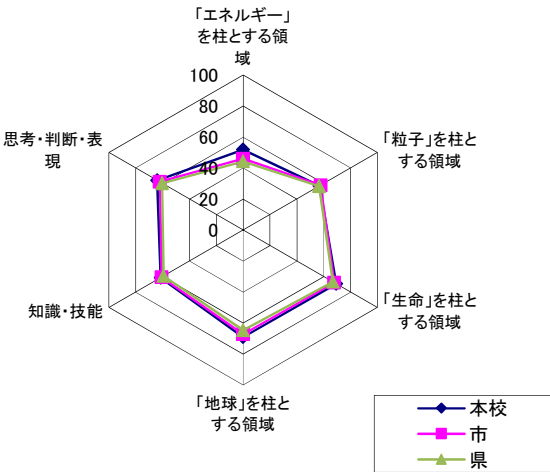
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○平均正答率は56.2%で、市の平均を1.3ポイント上回っている。 ○大きな数の表し方についての問題では、正答率が87.0%で、市の平均を0.6ポイント上回っている。また、小数の何倍の整数かを選ぶ問題では、市の平均を5.8ポイント上回るなど、小数の仕組みがよく理解できている。 ●見積もりの考え方について説明する問題では、正答率が29.6%で市の平均よりも下回っている。	・大きな数の表し方や小数のしくみについて、まだ理解が十分でないので、復習の機会を設け、基礎基本の確実な定着を図る。 ・数学的な考え方や計算のくふうについて、自分の考えを言葉で説明する力を身につけていけるように、授業内で個々に考える場や時間を十分に確保していく。
図形	●平均正答率は54.6%で、市の平均を2.0ポイント下回っている。 ○立方体の展開図として正しくないものを選ぶ問題では、正答率が81.5%で市の平均を9.9ポイント上回っている。 ○三角定規を利用して正しい角度を選ぶ問題では、市の平均を14.8ポイント上回っており、三角定規の角度をよく理解できている。 ●平行四辺形の作図をする問題では、正答率が22.2%と低く、作図の仕方の理解が十分でない。	・計算スキルやAIDリル等を活用し、図形の性質や面積を求める問題について復習の機会を設け、より一層の習熟を図る。 ・図形の作図の仕方について、三角定規やコンパス、分度器の使い方を改めて確認し、様々な図形の作図を繰り返し復習したり、個に応じた学習活動をしったりする。
変化と関係	●平均正答率は51.9%で、市の平均を3.2ポイント下回っている。 ○表から数量関係を答える問題では、正答率が77.8%で、伴って変わる2つの数量関係を正しく読み取ることができている。 ●割合を使った比べ方を説明する問題では、市の平均を上回ったが、正答率31.5%と低い。	・伴って変わる2つの数量の関係を式に表す問題については、スキルやプリントで集中的に復習する。 ・割合のしくみや割合を使った比べ方について、繰り返し復習したり、習熟度別学習などの学習形態を工夫したりして、さらなる定着を図る。
データの活用	●平均正答率は42.6%で、市の平均を2.9ポイント下回っている。 ○折れ線グラフを読み取る問題では、正答率55.6%で、必要なことを正しく読み取ることができている。 ●グラフから変化の様子を読み取り、説明する問題では市の平均を上回ったが、正答率は11.1%と低い。	・既習内容をしっかり身に付けられるよう、スキルやAIDリルを用いて、定期的に復習の時間を取り、さらなる定着を図る。 ・グラフから読み取った変化の様子など自分の言葉で説明できるよう、普段の授業において意図的に場を設け、考えを言葉で表現する力を育てる。

宇都宮市立昭和小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	51.9	46.0	44.3
	「粒子」を柱とする領域	56.9	57.7	56.6
	「生命」を柱とする領域	69.3	67.8	66.9
	「地球」を柱とする領域	69.1	67.2	64.6
観点	知識・技能	61.4	60.8	59.2
	思考・判断・表現	64.1	62.1	60.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	○平均正答率は51.9%で、市の平均正答率を5.9ポイント上回っている。	・学習のまとめの場面で、教科書で扱われている用語を使いながら自分の言葉でまとめる活動を取り入れ、さらに知識の定着を図る。
「粒子」を柱とする領域	●平均正答率は56.9%で、市の平均正答率を0.8ポイント下回っている。 ●湯気についての状態を選ぶ問題では、正答率が20.4パーセントで市の平均正答率を12.0パーセント下回っている。	・液体と気体の違いを、体感を基にしながら調べるようにしたり、日常生活と関連させたものを取り上げたりすることで、理解を深められるようにする。
「生命」を柱とする領域	○平均正答率は69.3%で、市の平均正答率を1.5ポイント上回っている。 ●季節ごとの動物の活動について理解しているかどうかについての問題では、市の平均正答率を3.7ポイント下回っている。	・実験や観察で得られた結果を、自分の言葉で考察したりまとめたりする活動の時間を十分に確保する。 ・理科で学習したものと身近な事象を関連付けたり、話題にしたりして、日常生活の中でそれらの知識を生かしていくように働きかける。
「地球」を柱とする領域	○平均正答率は69.1%で、市の平均正答率を1.9ポイント上回っている。 ●空気中の水蒸気が冷やされると水になることを理解しているかどうかについての問題では、正答率が42.6パーセントで市の平均正答率を11.1パーセント下回っている。	・実際に見て観察することが難しい場合は、デジタル教材等を活用したり、家庭で観察した結果について確認整理したりし、知識につなげるようにする。

宇都宮市立昭和小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で学校の宿題をしている。」の肯定的回答の割合は、100%と市の平均より3.3ポイント上回り、「家でテストで間違った問題について勉強している。」の肯定的回答の割合は、市の平均より3.3ポイント上回っている。家庭で、宿題やテストの復習など決められた内容の学習に取り組んでいる様子がうかがえる。

○「授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている。」「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている。」の肯定的回答の割合は、それぞれ5ポイント、9.8ポイント市の平均を上回る。授業のめあてを明確にして学習に取り組み、その時間に学習したことをしっかりと振り返るなど、丁寧に授業に取り組む姿勢がうかがえる。

○「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる。」の肯定的回答の割合は、市の平均を6.4ポイント上回る。今後も一人一人の学習状況に目を向け適切に指導すると共に、児童が分からないことを教師に聞きやすい雰囲気づくりに努めていくようにしたい。

●「家で授業の予習をしている。」「復習をしている。」の肯定的回答の割合は、市の平均よりそれぞれ9.9ポイント、15.6ポイント下回る。ほとんどの児童が宿題を行っている一方で、予習・復習を行っている児童が市の平均より下回っているということから、自分に必要な学習の内容を考え、計画・実行する力が身に付いていないことがうかがえる。家庭と連携を図りながら、家庭学習の意義ややり方について再度指導しながら取り組んでいく必要がある。

●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。」の肯定的回答の割合は、市の平均を10.2ポイント下回る。ペアや小グループなど学習の形態を工夫改善する中で、発表のスキルを身に付けさせたり自信をもたせたりしていきたい。また、発表したことにより学習の内容が深まったと実感できるような自己有用感をもたせ、発表への意欲を高めていきたい。

●「自分はクラスの役に立っている。」の肯定的回答の割合は、市の平均を11.5ポイント下回る。どの児童も、当番活動や係活動に誠意をもって取り組んでいる。自分のしていることが学級の役に立っているということを伝え合う場を設けたり、教師が言葉で伝えたりして、集団への所属感、自己有用感を高めていくようにしたい。

宇都宮市立昭和小学校（第4・5学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎・基本定着のための「じっくりタイム」の実施と家庭学習の習慣化	学校全体の学力アップ月間を年2回設け、計算力や漢字力アップなどのポイントを絞って基礎学力アップを図っている。また、保護者とも連携し、「家庭学習の記録」を活用して、家庭学習を充実させている。継続的・計画的に適切な分量・内容の宿題を出し、保護者とも連携しながら、家庭学習の習慣を身に付けられるようにする。	4・5年生ともに「家で学校の宿題をしている」に肯定的に回答した児童の割合は、97.5%以上と、どちらの学年も市の平均を約3ポイント上回る。一方、自ら学習に取り組む態度に関わる「家で、自分で計画を立てて勉強をしている。」の肯定的回答の割合は、4年生で56.5%で市の平均を17.7ポイント下回る。また、5年生では72.4%と市の平均を1.9ポイント下回る。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
家庭学習において、ほとんどの児童が宿題に取り組んでいる一方、自分で学習内容を計画して取り組むこと、予習や復習をすることについては課題が見られた。	・自ら学ぶ姿勢を育てる。	・家庭学習の仕方について、再度、意義や内容などを確認する。 ・発達段階に応じ、家庭学習の内容を自分で計画し振り返る機会を増やす。 ・家庭との連携を図る。 ・よい取り組みを紹介する。 ・普段の授業の中で、疑問に思うこと、さらに学びたいと思うことを取り上げ、児童が学習の内容を考える際のヒントとなるようにする。 ・児童が取り組みたくなるような、家庭学習の内容を教師が工夫し、自ら学ぶ喜びを体得させる。